

2026年の神美クイズは「知っとこ！神美」にヒントがあります 今後も使用するので保存しておいてね！

振興部の

知っとこ！神美 2026年6月号

知っておいてほしい神美を紹介します。

たちばなの郷
神美裏路地探検

三宅

田道間守命と神功皇后の母生誕の天皇直轄地を巡る

お菓子の神様に会える たちばなの里 三宅

1. 中嶋神社

中嶋神社は、兵庫県豊岡市神美「かみよし」地区にある、お菓子の神様「田道間守命(たじまもりのみこと)」がまつられている神社の総本社です。中嶋神社は7世紀後半、推古天皇の時代に建てられました。神社の名前は「田道間守命」のお墓が垂仁天皇陵の池の中に、島のように浮かんでいることに由来するといわれています。室町時代に建立された本殿は「二間社流造り」という珍しい様式の建物で、これは、室町時代の典型的な神社建築を伝えるものとして、明治45年に国宝に指定され、現在は国の重要文化財となっています。



中嶋神社(鳥居)



中嶋神社(拝殿)

2. 三宅瓦窯跡

●三宅瓦窯跡(みやけがようせき)(豊岡市三宅)

豊岡市三宅の慈等寺の境内下

約1300年前に三宅廃寺の屋根を葺くために築かれた登り窯である。

できたての瓦は、すぐ隣接地に建設された三宅廃寺に使用されたといわれている。



三宅廃寺の軒丸瓦

●薬琳寺遺跡の登り窯

奈良時代前期(白鳳時代 700年代)の寺の跡。この下に塔屋敷(とうやしき)という字名の所があります。塔もしくは金堂など大きな建物を示す字名だそうです。その建物の棟の両端にあげた鴟尾(しび)(現在のシャチホコ)という瓦の破片また軒先を飾ったであろう軒丸瓦や多数の平瓦が出土した事を示しています。出土した瓦は、神美村誌では中嶋神社へ保存と書いてありますが見たことがありません。

3. 慈等寺

4. 木造十一面千手観音立像

前身は先の薬琳寺です。中世には中嶋神社神宮寺だったようです。薬琳寺本尊は十一面千手観音像で頭頂部の火災の傷や薬琳寺礎石に焼色のある事から薬琳寺が室町末期に火災にあい消失したようです。江戸時代初期には慈等寺は成立していました。十一面千手観音像の修復札には慈等寺と書いてあったようです。神美村誌には寺の言い伝えとして空海(弘法大師)の作となっていますが現在の豊岡の文化財の表記にはそのようなことは書いてありません。薬琳寺後の伝えとして宝篋印塔が寺の墓の中に移転してありますがこれも定かではありません。

元文化庁主任文化財調査官の話では、鎌倉時代初期(西暦1060年頃)の製作。檜を使用した木彫りの一本作りで、分業作業が出来なくすべて一人で彫った仏像、口と鼻が小さく顔立ちから見て定朝(じょうちょう)作の特徴だと思われる張った肩や厚い胸部にその当時の特徴が見られ重量感が感じられる。県の文化財ではもったいなく、国の文化財になってもおかしくない仏像だそうです。



木造十一面
千手観音立像

5. 御所(地名)

「御所」の地名は貴き人の住居所、神功皇后(じんぐうこうごう)の母の生誕の地と言われております。

この屋敷跡を御屋敷と言います。御所という地名が示すように、中嶋神社の菓祖の御住所だったであろうと言われております。